

小学校第1学年 生活科学習指導案

日 時 平成29年7月4日(火)2校時

指導者 教育センター所員 福山 信代

1 小単元名 みずで あそぼう

2 小単元について

(1) 児童の実態

入学して3か月が経ち、始めは緊張ぎみであった本学級の児童だが、学校探検等の活動を通して学校にも慣れ、安心して自分らしさを表出するようになってきた。自分の周りの友達への関心も増し、友達と一緒に遊んだり活動したりすることを好む児童が増えている。遊びについては、幼稚園や保育園で、季節の自然素材や身近な物を使って遊ぶ経験をしており、ものをつくることを好む児童は多い。反面、映像やゲーム等の仮想体験が増えており、自然に直接触れ、自ら遊びや遊び方を工夫して友達と一緒に楽しむ経験は減少傾向にあることは否めない。表現活動については、個人差はあるものの、みんなの前で話すことに少しずつ慣れてきた。時期的に文字での表現は、これからの段階である。

(2) 単元観と教師の願い

本小単元は、単元「なつだ あそぼう」の小単元として構成したものであり、学習指導要領の内容(6)を受け、設定している。児童に、身近にある物を利用して遊びを工夫して作り出す楽しさや、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わわせることをねらいとした単元である。活動を通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付き、さらに、友達と一緒に遊びながら、遊び方を工夫したり、約束やルールをつくったりして、友達との関わりを深めたり広げたりすることもできると考える。

身近な自然としては、夏という季節に最もふさわしい水を取り上げる。水を使った遊びに限定することで、児童が追求する要素が絞られ、気付きの共有化が図りやすいと考える。また、思いや願いを実現しようと試行錯誤する経験は、2学期の単元「たのしいあきいっぱい つくろう あそぼう」で、おもちゃづくりに取り組む際に生かされると考える。そこでは、活動が自ずと活性化し、つくったおもちゃで保育園児と交流したり学校祭りへ参加したりするなど、更にダイナミックで発展的な展開も期待できる。

(3) 指導にあたって

前小単元で、「なつさがし」を行いながら、暑い季節を気持ちよく過ごすために水や水で遊ぶことへ興味を持たせておく。導入では、水を使ってやってみたい遊びについて話し合い、教師が水飛ばしを自演してみせることで自分もやってみたいという意欲を喚起する。体育で行うプールでの水遊びとは目当てが異なるため、「水を使って」ということで遊びをイメージさせるようにする。

水を使った遊びへの思いを持たせた上で、身近な道具を利用して自由に遊ばせる。ふだんは何気に触れている水にじっくり関わることで、その不思議さにも気付かせたい。見立てたりたとえたりする児童の様々な発想を大事にし、また、無自覚に行っていることを対話で引き出し、価値付け、紹介す

ることで、遊びが広がり、気付きが出るように支援する。活動は、屋根があり熱射病の心配も少ないピロティで行う。学習環境として、安全面に考慮し、道具コーナーと遊びのコーナーを分けて設置する。ビニル袋、マヨネーズチューブ、ペットボトル、牛乳パック等各種入れ物は、児童が手に取り、吟味して選べるように、事前に家庭から持ち寄らせておく。試行錯誤させるために柔らかすぎる素材や紙製の容器等あえて扱いづらい物も入れておくようにする。また、穴を開ける「かるこ」の使い方は、適切な場面で教え、教師の見える場所で使うよう安全面に配慮する。教師は、なるべく指示を出さず、児童の活動を見守りながら時には一緒に遊ぶ者となり、児童の活動や会話、つぶやきを見取っていく。児童と積極的に対話することで気付きを顕在化させその思いや願いを実現し、更には気付きの質を高めていけるよう支援していく。活動中、友達と互いの工夫を見合って教え合って学べるように似た遊びをしようとしている児童同士を近くに寄せる配慮をする。遊びはそのうち水鉄砲のような飛ばす物やシャワーのような楽しむ物に淘汰されていくことが予想される。そこで「もっと遠くへ飛ばしたい」「もっと楽しくしたい」などという願いを導き、本時につなぐ。

本時は、その願いを実現させるために、容器の素材、穴の大きさ、押し方や遊び方といった視点をもたせ、友達と比べたり作り直したりを繰り返しながら試行錯誤して行わせる。そして、遊び方を工夫したり、きまりやルールを考えたりしている児童を取り上げ、次時のみんなと一緒に遊ぶ活動へ発展させたい。児童が思いや願いを活動につなげ遊び方を工夫しながら協力したり、競い合ったりするよう、存分に遊びに没頭する時間を保障する。教師は、遊びのルール等にアイデアを出した児童や、友達同士のいさかいを自分たちで解決できた児童らを、大いにほめ、遊びのルールや約束ごとの大切さに気付かせたい。生活科の時間内に限らず活動が活性化していれば、休み時間や課外にも連続するよう柔軟に展開させたい。

終末には、映像や写真でこれまでの活動を振り返らせ、自分のがんばりやよさにも気付かせ、満足感を味わわせたい。そして楽しかったことや発見したこと等をおうちの人へ「あのね日記」にして書かせる。おうちの人に話したいという思いが、書く表現への抵抗感を軽くすることが期待できる。児童が思いや願いを遊びの中で実現し、意欲と自信をもつことができた様子を見取ったところで、さらにシャボン玉や色水づくりなどの水を使ったその他の遊びを紹介し、夏休みにやってみようという新たな思いや願いを持たせ、オープンエンドとする。

3 小単元の目標

身近な自然である水を使った遊びや遊びに使う物を工夫してつくりながら、その面白さや不思議さに気付き、友達と遊びを楽しむことができるようにする。

《評価規準》

	ア 生活への 関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての 思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての 気付き
単元の評価規準	水を使った遊びや遊びに使う物づくりに関心を持ち、友達と関わりながら、楽しく遊ぼうとしている。	水を使った遊びを考えたり、遊びに使う物を自分なりに工夫したりして、それをすなおに表現している。	水を使って楽しく遊べること、遊びや遊びに使う物をつくる面白さ、自然の不思議さ、友達と一緒に遊ぶ楽しさに気付いている。
学習活動における評価規準	① 水を使った遊びに関心を持ち、思いや願いをもって遊びや遊びに使う物をつくらうとしている。 ② 友達と関わりながら、楽しく遊ぼうとしている。	① 友達と比べたり、繰り返し試したり、見立てたりしながら水を使った遊びや遊び方を工夫している。 ② 遊びを工夫したことや気付いたことなどを、自分なりに表現している。	① 身近な物を利用して水を使った遊びが楽しくできることに気付いている。 ② 遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さ、水の性質の不思議さ、友達と関わって遊ぶ楽しさに気付いている。

4 指導計画（全6時間） 本時 3/6時

時配	主な学習活動 子どもの思いや願い	教師の働きかけ	評価計画
前小単元から	<p>《なつをさがそう》</p> <p>○夏だなあと感じることを出し合う。</p> <p>○校庭で「なつさがし」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せみがいたよ。 ・運動場の土を触ると熱い。 ・草が緑でぼうぼうになったね。 <p>・あせびっしょりだ、あつい。水遊びしたいなあ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏を感じることや物を出し合わせ、季節への関心を高める。 ・天候のよい日に校庭や日陰で「なつさがし」活動を行い、夏を体感させ、気持ちよく楽しく過ごす工夫をしていることに気付かせる。 ・見つけたものを「なつみつけ」カードにかいて、集めていく。 	

1	<p>《わくわく、みずであそぼう》</p> <p>○水を使ってどんな遊びをしたいか話し合う。</p> <p>・やったあ！水を早くさわりたいな。</p>  <p>みずをつかって、あそぼうよ</p> <p>○安全面についての約束をつくる。</p> <p>○これからやってみたいことを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏ならではの楽しい遊びを出し合わせ、わくわく感を誘う。 ・楽しく遊ぶために「水を人に掛けない。遊んだ水は飲まない。無駄遣いはしない。」などの約束を確認する。 ・心地よい水の音を聴かせたり、教師が容器の水を飛ばしてみせたりして児童の活動意欲を喚起する。 	<p>アー①</p> <p>ウー①</p> <p>観察発表学習カード</p>
---	---	--	--

<p>2 十 課 外</p>	<p>《みずで あそぼう》</p> <p>○水を触ったり、容器に入れたりして自由に遊ぶ。</p> <p>○友達と関わりながら、比べたり、見立てたりして遊びを広げる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐるぐる混ぜると波ができるよ。 ・ビニル袋に入れて水枕にすると、冷たくて気持ちいいな。 ・穴をあけたら、噴水みたい。 ・押したら水が飛ばせるよ。 </div>  <p>○遊んで楽しかったこと、気付いたことを紹介し合い、もっとできそうなことを出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な遊びを思いつくことができるよう、たらいやビニル袋、牛乳パック、ペットボトル等多様な入れ物を用意しておく。 ・活動する児童と対話して言語化することで価値付けたり、周りの児童へ広めたりする。 ・遊びを始められない児童には、友達と遊ぶように促したり、教師と一緒に遊んで遊びに誘ったりする。 ・見立てたりたとえたりした様々な遊びを称賛し、活動意欲を高めさせる。また、「ぐによぐによ動く」等のつぶやきを紹介し、水の面白さ不思議さに気付かせる。 ・水を飛ばす遊びをしていた児童を取り上げ、「あの板まで飛ばせるかな。」等と問い掛け、追究意欲を喚起する。 	<p>アー② イー① 観察 発言、つぶやき 教師との対話 学習カード</p>
<p>3 本 時</p>	<p>《みずで もっとあそぼう》</p> <p>○水をもっと遠くへ飛ばせるよう、もっと楽しくなるよう工夫をしながら遊ぶ。</p> <p>○つくって試して比べて遊ぶ活動を繰り返しながら、遊びや遊び方を工夫する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・マヨネーズの入れ物が、飛ばしやすい。 ・水がもれる。ふさぐといいかも。 ・穴をいっぱい開けるとシャワーみたい。 </div> <p>○活動を振り返り、工夫や気づきを伝え合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・強く押すと遠くまで飛んだよ。 ・水のトンネルでぐりっこしたよ。 ・的を作って点数を付けて、ゲームしたらもっと楽しくなりそう。 ・みんなで飛ばっこ競争したいな。 ・シャワーで虹ができたよ。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと遠くまで飛ばしたい、もっと楽しくしたいという思いや願いを実現させるにはどうすればよいかを出させることで、工夫の視点に目を向けさせる。 <small>作り方(穴の数や大きさ、入れ物の素材、大きさ、) 押し方、遊び方等</small> ・思いや願いが似ている児童同士を近くに座らせたり、安全面を考慮し「どうぐコーナー」「あそびのコーナー」を分けて設置したりという場の構成をする。 ・失敗しながら考え、工夫をしていく姿を称賛することで、気づきを促していく。 ・ペアや全体で伝え合わせることで、工夫したことを共有させ、そのよさを実感させる。 ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを取り上げ、みんなで遊びたい思いを膨らませるようにする。 	<p>イー① 観察 発言、つぶやき 教師との対話 学習カード</p>

4 5 + 課 外	<p>○みんなであそぶ。</p> <p>飛ばしっこ、的当て、水ため競争、水で地面にお絵かきなど</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に大きな絵を描けたよ。 ・勝ち負けでけんかになったよ。「せーの。」で発射させようよ。 ・昼休みもやりたいな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶ時間を十分保障し、遊ぶ場所も広げることで活動への満足感を味わわせる。 ・教師は、活動のよさを見取り、気付きを促す。活動が滞り必要性を感じた場合は、支援を行う。 ・遊びのルールやきまりを決めたり、いさかいを自分たちで解決できたりした時は、大いに称賛する。 	<p>アー② ウー②</p> <p>観察 発言、つぶやき 学習カード</p>
6	<p>《ふりかえり》</p> <p>○活動を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんと飛ばしっこして楽しかったよ。 ・はじめは水鉄砲ができなかったけど、〇〇さんが、教えてくれたよ。〇〇さんの、すごくよく飛ぶよ。 ・家で、弟と一緒に遊ぼう。 </div> <p>○水を使った遊びは他にもあることを知り、新たな意欲を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャボン玉、色水づくりなど <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みにシャボン玉をやってみたいな。 ・友達を誘って一緒に遊ぼう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を写真や映像で振り返り、楽しかったことやがんばったこと仲良く遊んだことを自覚できるように自分のことや友達のことを出し合わせる。 ・おうちの人へ「あのね日記」を書くことで、絵や文で振り返らせる。 ・書くことが苦手な児童とは、対話しながら振り返らせ、気付きを言葉に置き換えさせる。 ・夏休みを目前にし、シャボン玉や色水遊びなど水を使った他の遊びを紹介し、新たな思いや願いを喚起する。 	<p>イー② ウー②</p> <p>観察 発言 日記カード</p>

5 本時について（本時3／6）

（1）目標

友達と比べたり、繰り返し試したり、見立てたりしながら水を使った遊びや遊び方を工夫することができる。【思考・表現】

（2）指導の視点

- ・もっと遠くへ飛ばしたい、もっと楽しい物にしたいなどの児童の思いや願いを活動の原動力として、児童が、比べたり、繰り返し試したり、見立てたりしながら自分なりに水を使った遊びや遊び方を考え、工夫していくことができる授業展開になっていたか。
- ・教師の対話による能動的な評価や支援は、児童の思いや願いを実現しようとする活動や思考を促すために有効であったか。

(3) 展開

主な学習活動 子どもの思いや願い	教師の働きかけ (○) と評価 (◆)
1. 前時の写真やつぶやきを振り返り、本時のめあてを確認する。 ・マヨネーズの入れ物が押しやすい。 ・小さい穴をもっとふやしてみようかな。	○前時の遊びを写真で想起させ、もっと遠くまで飛ばしたい、もっと楽しくしたいという思いや願いを実現させるにはどうすればよいかを出させることで、工夫の視点に目を向けさせる。 作り方(穴の数や大きさ、入れ物の素材、大きさ、)押し方、遊び方等 ○やってみたいことをとなりの友達に話すことで、本時の自分の目当てを明確にさせる。
もっと たのしく みずで あそぼう！	
2. 水をもっと遠くへ飛ばせるよう、もっと楽しくなるよう遊びや遊び方を工夫する。  ・マヨネーズの入れ物が、飛ばしやすい。 ・水がもれる。ふさぐといいかも。 ・穴をいっぱい開けるとシャワーみたい。 ・そっと押しより、ぎゅっと押した方がよく飛ぶ。 ・的をつるして、当ててみようよ。 ・見て！私のシャワーに虹ができるよ。 ・ペットボトルを水で倒せるかな。一緒にやろうよ。	○安全面を考慮し「どうぐコーナー」「あそびのコーナー」を分けて設置しておく。 ○つくって試して遊ぶ活動を友達と一緒にできるように、思いや願いが似ている児童同士をそばに寄せるように配慮する。 ○失敗しながら考え繰り返し工夫をしている姿を称賛したり対話したりすることで、気づきを促していく。 ○活動が滞っている児童には、寄り添い思いや願いを尋ね、参考になる友達を紹介したり、教師が手助けをしたりするなど個に応じて支援をする。 ◆友達と比べたり、繰り返し試したり、見立てたりしながら水を使った遊びや遊び方を工夫している。 【思考・表現 イー①】(学習カード、発言、つぶやき)
3. 活動を振り返り、工夫や気づきを伝え合う。 ・強く押すと遠くまで飛んだよ。 ・水のトンネルでぐりっこしたよ。 ・的を作って点数を付けて、ゲームにしたらもっと楽しくなりそう。 ・みんなで飛ばしっこ競争したいな。 ・シャワーで虹ができたよ。	○ペアや全体で伝え合わせることで、工夫したことを共有させ、そのよさを実感させる。児童が、活動したことを想起しやすいように活動の様子を撮影した写真を提示することで、振り返りの手助けとしたい。 ○漫然とした振り返りにならないよう 「～すれば、もっととんだよ」「～したら、たのしくなった」等視点をもたせるようにする。
4. 次の活動の見通しをもつ。 ・みんなで飛ばしっこをしたいな。 ・水鉄砲で、運動場にお絵かきしようよ。	○友達と一緒に遊ぶ楽しさを取り上げ、みんなでもっと遊びたいという思いを膨らませるようにする。